

## 第4回笠間市補助金等検討委員会議録（要旨）

開催日時：平成19年2月28日（水）

午後6時

開催場所：笠間市役所 2階 中会議室

出席委員：野村 委員長，岡村 委員，橋本 委員，兪 委員

欠席委員：鈴木 委員，後藤 委員

事務局：大和田俊郎（財政課長），櫻井史晃（課長補佐），中村 公彦（主査）綱川廣道（係長），木村 成治（係長），川又英生（主幹）

．．．．．次 第．．．．．

### 1. 開会

### 2. 議事

- (1) 個別補助金の検討について
- (2) 審査表について
- (3) 補助金検討の方法について
- (4) 今後（4月以降の）日程の調整について
- (5) その他

### 3. その他

○会議に先立ち前回の議事録の承認

〈委員長〉

第4回の委員会を開催する。

今日の議題は「個別の補助金の検討」であったが，各委員からの要望がなかったので，事務局に事例を出させたので，それにより個別の補助金の検討を行う。あわせて，審査表の点検もという二つが今日の作業となる。事務局からの説明を求める。

〈事務局〉

経過と説明方法について説明。

〈委員長〉

「三世代ふれあい事業補助金」について説明をするように。

〈事務局〉

「三世代ふれあい事業補助金」を審査表（案）に基づき説明。

〈委員長〉

いかがか。この検討がこれからの個別の補助金に入って行くための一つの模擬となる。この方法でよいのか，資料としては適当かというところを検証しなくてはならないということを踏まえてご議論を深めたい。

さらに，委員会で補助金が評価表の総合評価にある見直し基準の具体的な内容のどこに適合するか，所管課及び補助団体への提案をまとめていくことになる。

説明を聞いていかがか。

〈委員〉

審査表について、補助金を合併前にどこの制度で行っていて、それがどのようになっているのか。この補助金によってどのような事業を行っているのかを表示すると、事業の効果との比較が分かりやすい。もう一つは、他の部局でも目的が類似する事業や補助金があるのかどうかの検証も必要ではないか。こういうことは、審査表に表示して欲しい。

あともう一点、他市の状況のなかで、同じような補助金について統廃合や廃止を検討していれば、その情報も欲しい。

〈委員長〉

四点ほど指摘があった。指摘事項については、修正してよいか。

他の市町村での同じような補助金への取り組み方について、情報は取れそうか。

〈事務局〉

大丈夫です。

・・・・・・・・補助金についての具体的質疑あり・・・・・・・・

〈委員長〉

今は審査表の設計がこれで十分なのかとこの事例に見直し基準の判断をすると、どのような判断を下していくことが適当であるのかを検討している。適当、整理統合、減額・上限設定なのか、終期の設定をした方がいいのか基準があるが、事例1の説明を聞いて、いかがか。今までの情報での判断は難しいか。

〈委員〉

一律配分なので、実施主体の自発的な考えによるものなのか、補助金があるから何かしなければならぬ、という考えでいるのか。の判断が必要なのではないか。

見直しとなれば、応募による交付が良いのではないか。

そこまで踏み込んで判断していいのか。

〈委員長〉

いかがか。

〈事務局〉

抽象的なコメントでも結構だが、判断はして欲しい。

〈委員〉

ある程度の事業内容が十分把握できないと、的確なコメントができない。

〈委員〉

所管課のヒヤリングは実施することでよいのか。

〈委員〉

この事業でいえば、学校によって内容は異なるので、内容を聞く必要はある。

〈委員〉

補助するのであれば、その費用対効果に対する中身が明確にしてある必要がある。

事業の内容と金額の根拠が分からないと判断するのは難しい。

〈委員長〉

このような形でヒヤリングを行うことになると、相当時間がかかるが。

〈事務局〉

ヒヤリングの現場では、主管課の説明の趣旨が審査表に現れるようにしたい。

〈委員長〉

審査表が委員の皆さんに事前に配布できるのであれば、時間の短縮になるが。

ヒヤリングの進行を今後どのようにするか、意見を伺うのでその中で運営の方法は議論したい。

今日はリハーサルということなので、先に進める。

〈委員〉

了承。

〈委員長〉

実際には、もっとストレートな意見を願います。

つづいて事例2に入る。

〈事務局〉

事例2の「茨城県石材業協同組合連合会補助金」を説明。

〈委員長〉

いかがか。

〈委員〉

根拠法令等の欄への記入は、厳格に対応した方がよい。

県からの補助金があり、それと他の市町村と市も補助しているということであれば、市以外の他の補助金があるのかどうかの項目を加えて欲しい。また、効果の想定の方法と効果の内容がずれている。

〈委員長〉

それ以外に、いかがか。

〈委員〉

補助金の総額の400万円を按分して1対2で分けた理由は何か。

按分する基準も明確なものがあれば、示して欲しい。

〈事務局〉

構成市町村の数によるものと、併せて組合員数による。

〈委員長〉

積算基礎の表示が必要である。

〈委員〉

審査表の点検はこのようなことか。

- ・ 補助金交付団体の経済状況へのコメント。
- ・ 産業特性のコメント

〈委員〉

事業全体の予算が1,200万円のうち500数十万円が補助金だとすると、この委員会で、どこまで事業内容についてコメントを出す権限を持つのが難しい。

1,200万円の内補助金はこういう所に使っていて、この使い方が適切なのかどうかということに対して判断できるのか。

〈事務局〉

審査表の添付資料としての補助団体の決算状況は付けさせる予定でいる。事業内容については、確認できる形にしたい。

〈委員長〉

総合評価の具体的な表現としては、トータル的には補助金総額は増やす事ができない状況にあり、財政状況から見れば、皆さんどんどん使いなさいという表現はできない。方法や実施内容を良く考えること、効果性をもう少し考えたかどうか等になると思われる。

事業の中身を良く把握してないで、的外れなことを言って「何を委員会は言っているのか。」という反応になっても困る。

〈委員〉

効果の想定方法では、来場者と販売高としているが。ここには来場者数しか入っていない。販売高を表示するのは難しいのか。ここに数字が入れば、費用対効果の比較ができるが。

・・・・・・・・・・効果の表現方法について議論あり。・・・・・・・・・・

〈委員〉

担当課が客観的な数字の測定をどのようにするのが問題となる。

市民に対して補助金の効果が示せないといけない。

〈委員長〉

効果の表現は、数字の出し方、見せ方を工夫して判断できるようにして欲しい。

次に進める。

〈事務局〉

事例3「消防後援会連絡協議会運営補助金」の説明。

〈委員長〉

いかがか。

～事務局と委員との間で現状についての意見交換あり～

〈委員長〉

事例1から3までの説明を受け、かなり整理された話を聞いたと思う。次回以降は、審査表の話ではなく具体的な審査の中身の話で評価表の中の総合評価を検討したい。

次の議題に入る。

〈事務局〉

- ・補助金の総数が19年度予算に計上したもので、160余ある。
- ・この検討委員会の開催が基本的に月に1回となると、9月までのまとめは大変時間的に難しい。
- ・できるだけ効率的な方法で判断をしていただきたい。
- ・夜間での2時間だけでは、難しいと思われるので、昼間で開催できないか。

〈委員長〉

いかがか。

〈委員〉

審査表の作成は何時頃できるのか。

〈事務局〉

- ・ 中間答申の確定により、4月中に担当課に補助金検討の説明会を実施する。
- ・ 実績報告等の確定は、事業によって異なるが5月中旬になる。
- ・ 事業補助の場合であれば、事業が終われば実績はでるので、順次、審査表の記入は終わると思われる。

〈委員〉

審査表により、要検討とか、検討の必要がないものの分類を各委員が行い、それに基づいて行うことではどうか。

〈委員〉

担当課があらかじめ分けたなかで、ここに出してもらおうとスピードアップが図れると思うが。

〈委員長〉

審査表の確認を担当で行い、その後委員会の書類審査により判断をしていくということで、よろしいか。

〈委員〉

了承

〈委員長〉

今後の委員会の開催日と開催時間について、変更は可能か。

〈委員〉

あらかじめ日程が分かっているならば、大丈夫だが。

〈事務局〉

次回3月の時までには今後のスケジュールを確認してきて欲しい。

〈委員長〉

続いて、何かあるか。

〈事務局〉

次回の委員会は、3月28日の水曜日の6時から行う事でよろしいか。

〈委員長〉

いかがか。

〈委員〉

了承

〈委員長〉

3月は28日に実施することとする。

〈事務局〉

これで委員会を閉会する。

(解散：午後7時50分)